

特別講演 1

「患者さんにより負担の少ない心臓手術を ～福井循環器病院における低侵襲心臓手術（MICS）の現状～」

獨協医科大学 心臓・血管外科講師
(元福井循環器病院 心臓血管外科部長)

齋藤 俊輔 先生

外科手術における低侵襲化による患者さんの負担軽減はすべての外科領域における必須課題であり、心臓手術においても例外ではありません。心臓外科分野においては、2018年4月より胸骨切開を伴わない胸腔鏡下弁形成術、腹腔鏡下弁置換術が正式な保険術式となりました。

心臓手術における低侵襲術式は、小切開心臓手術または低侵襲心臓手術(minimally invasive cardiac surgery: MICS)と呼ばれています。MICSでは右の胸部を5～8cm程度切開し、肋骨の間で開胸して行います。服を着れば傷跡は隠れてしまいますし、女性では乳房に完全に傷跡が隠れてしまう場合もあります。骨をいっさい切りませんので、出血が少なく、輸血量を減らすことができます。胸骨の安静を気にする必要がないため、術後1週間程度で退院され、そのまま職場復帰される患者さんもおられます。当然胸骨感染や縦隔炎のリスクもほとんどないと言えます。

福井循環器病院においては、このMICS手術を様々な心臓疾患に応用し、患者さんの負担軽減、早期社会復帰を目指しています。